

ふすま同窓会「百年記念祭」の実施について



この度、ふすま同窓会百年記念祭実行委員会委員長を拝命しました。

「百年記念祭」については、同窓会活動の節目となる大きな事業と位置づけ、これまで準備室を設け検討してきました。この結果に基づき、総会で決議された内容を報告し、実行委員会活動のスタートとします。

今後、この基本方針等に沿って、事業企画、資金計画などをさらに検討、具体化していきますが、会員の総力をあげた取組みとするため、皆様からの意見等を取り入れていきたいと思っております。

旧制高校から新制大学まで一本化された強い絆を持つ当会の特徴を発揮して展開して行きます。皆様からのご理解とご協力を心よりお願いします。

ふすま同窓会百年記念祭実行委員長 高橋 節（人文2回）

ふすま同窓会は、「山形高等学校」が、ここ山形の地で、大正9(1920)年に産声を上げてから、平成32(2020)年に、100年の歴史を数える時期を迎えることとなりました。

山形高等学校の創設は、第1次世界大戦後、世界各国に新しい教育運動の潮流が起こり、社会の各層に優秀な人材を送りだすための学制改革にいち早く呼応した、地元の活発な誘致活動の賜物でありました。

全国各地より有為の人材がここ山形の地に集まり、勉学、研鑽はもとより、青春を謳歌する若者の姿が、山形の文化を形成する一つの起点となったといっても過言ではないと思っております。

昭和24(1949)年、学制改革による4年制国立大学「山形大学文理学部」として生まれ変わり、その後、時代の要請に呼応し、昭和42(1967)年、「山形大学人文学部・理学部」に、また、平成29(2017)年、「山形大学人文社会科学部・理学部」となりました。この間、同窓生は、戦後復興のための各界での取り組みをはじめ、わが国はもとより世界の文化、経済活動等の多くの分野で活動してきております。

ふすま同窓会は、旧制高校及び新制大学の卒業生と現役学生とが強い絆で一本化された全国唯一の同窓会組織であるとともに、全国各地で同窓生の交流を進めております。また、学生への支援を通じて、大学・学部と密接に連携した活動を展開しております。

「ふすま100年」という記念すべき大きな節目の年に、母校を愛する同窓の誼を更に深め、これまでも温かく包んでくださった関係の皆様方とともにお祝いし、母校の発展並びに会員の益々の隆盛を祈念したいと存じます。

平成29(2017)年5月

ふすま同窓会

◎開催テーマについて

- ・会員からの公募により決定します。
(応募の詳細は、4頁参照)

◎基本方針について

- ① 100年の歴史をたどり将来を語る
- ② 会員相互の連帯を広げる
- ③ 同窓会の活動基盤を強化する

◎事業計画（現在検討中の主な事業）について

- ・記念祭式典・懇親会の開催
- ・記念誌、写真集の編纂・発行
- ・記念資料展の開催
- ・記念講演会の開催
- ・記念モニュメントの作成
- ・同窓会活動基盤の整備
- ・記念植樹
- ・記念品の作成
- ・大学行事との連携

◎事業規模（寄附金、拠出金等）の目標額について

5,000万円

◎実施時期について

平成32(2020)年10月

◎実行委員会について

- ・委員長 高橋 節（人文2回）

当面の組織構成

- ・総務・会計 渡邊 恭一（文理18回）
- ・広報 松田 博之（文理13回）
- ・式典・講演 横井 洋子（文理17回）
- ・事業 安彦 宏人（文理17回）
- ・記念誌等編纂 佐藤 圓治（理2回）

(注) 計画の進捗等を受けて組織の充実を図ります。